

SDGsは、良いまちに向かうためのみちしるべ。市内のSDGsの取組を、SDGs 取り組む方の「顔」が見える形でお届けします！



4 質の高い教育を
みんなに

vol+5. 『育てる』SDGs！

この目標番号では「誰でも平等に」教育が受けられるようにとされています。いろんな想いで取組をされている方から、「育てる」の多様さをぜひ感じてみてください。

主役は生徒！やりたいが探せる場所

愛知県立

犬山総合高等学校

立地は犬山市ですが、全校生徒の4割強が小牧市から通学中！今年の4月普通科高校から総合学科高校にリニューアル。その「チェンジ」について、森也寸司校長と奥村高志教頭にお話を伺いました。

リニューアル開校による生徒の変化はありましたか？

チャレンジ精神が旺盛で、何かに挑戦しようという生徒が増えたと感じます。特に新一年生は、新しい学校の「チェンジ」に共感して入学してきているんだなと。

教育に対する思いをお聞かせください

高校時代は学びと社会との接点を見出し、実社会に出ることに直面する時期でもあります。進学・就職の選択をするためにもキャリア教育を重視している総合学科という選択肢は必要だと感じています。本校での学びを通して「自分の強みはこれだ」というものを見つけてほしいと思います。

中高生の方に向けてのメッセージを

自分で学んでみたいというものを見て、それがすぐく面白かったから、もっと深く学ぶために先に進んでほしい。そういう生徒が育つようさまざまな取組をしています。



熱い想いを聞かせてくれた
森校長（上）と奥村教頭（下）



職人の技術と想いを次世代につなぐ

株式会社仲根石工造園

職人の技術を継承する創業74年の(株)仲根石工造園代表取締役仲根 弘志郎さんにお話を伺いました。

造園技術や知識のYouTube発信について

まず、ものづくりや伝統技術を引き継いでいこうという人が激減している現状があります。造園の技術や職人が生み出した技を後世に伝えることが今すごく軽んじられているからこそ、それをやらなきゃいけないと強く思っています。何百年と受け継がれてきた文化を知ってほしいので、技術の根本は変えずに今の時代に合うように魅力を伝えていこうという思いで発信しています。

地域の学校への協力活動について

中学生の職業人体験は15年前から受け入れています。その他に会社を運営するということや受け継いだ技術を守る大切さ、日本の庭づくり文化などを学校に向けて伝えていきます。

未来を託す子どもたちにメッセージを

若いうちにチャレンジをどんどんしてほしいなと思いますね。できない理由を考えるとじゃなくて、どうしたらできるかを考えて前向きにチャレンジしてほしいな。



現場と事務所でそれぞれに
パシヤリ！



楽しさの共有が仲間へとつながる

しきの会

障がいの有無を問わず、だれもが関わり合えるコミュニケーションづくりを目指して活動しているしきの会。関靖子さんに次世代につながる極意をお聞きしました。

スタッフに若い人が自立しますが？

活動を始めて8年、いろいろなイベントを体験してきて障がい当事者である子どもたちも企画側に回れるようになってきました。また参加した人が「楽しい」と感じてスタッフになってくれたりします。

若い人を引き付ける魅力は何でしょう？

障がいのある人が街に暮らしていることを認知してほしい、興味を持ってほしいと、障がい者と健常者が同じ時間を共有できる音楽やアート、料理などのイベントを開催してきました。その結果、参加者がスタッフとなり、企画立案もしてくれるようになっていきます。

障がい者と健常者を繋ぐものは

先日、視線入力アプリの体験会を催しました。いろいろな人に体験してもらって障がいについて理解してもらおうと。音楽・アートなども一緒に楽しめる手段です。感動を共有することがお互いの理解に繋がると信じています。



視線入力装置を使ったスポーツを行った時のしきの会の皆さん（上）と関さん（下）



「住み続けたい・働きたい」そんなまちの実現を目指してー

kaomik（カオミク）は、SDGsの視点から『こまきの人の魅力』を中高大学生に伝えるフリーマガジンです。お互いを知り、つながることができるきっかけとなれるような素敵な情報を、小牧市内外を問わず広くお届けします。

今回ご紹介した方々のもっと詳しいインタビュー内容や、kaomikについては右のQRよりご覧ください！

